

令和7年
第3回 定例会

公明党市議団の 代表質疑より

スタジアム・アリーナ構想を核とした幕張新都心のまちづくりについて

幕張新都心は、千葉市の未来を担う新たな都市拠点として、国際交流・業務、研究開発v商業・文化、スポーツ・レクリエーション、住宅など、多様な都市機能が一体的に集積したエリアです。

県内最大級の集客力を誇り、国内外から多くの人々が訪れる、本市の新都心です。

この地域では、令和4年度にJR京葉線・幕張豊砂駅が開業し、令和5年度にはイオンモール幕張新都心のリニューアルや企業の本社誘致が実現。令和6年度には、海浜幕張駅に新たな「公園改札」が供用開始されるなど、交通・商業・業務面での整備が進んでいます。

さらに、令和8年度には仮称・市立幕張若葉小学校の開校、市立幕張海浜病院の開院が予定されており、教育・医療の面でも地域の機能が強化されます。

令和9年度には幕張海浜公園Bブロックの活性化施設整備・運営に民間活力を導入することが決定。令和12年度にはAブロックにアルティーリ新アリーナが開業予定であり、令和16年度にはマリンスタジアムの再整備が目標されています。

これらの動きは、幕張新都心を第2のまちびらきとして再構築する大きな取り組みとなることから、今後のまちづくりには、司令塔となる組織の明確化と強いリーダーシップが求められます。

また、社会経済の動向や民間の意向、国・県・市の政策を的確に踏まえた新たな都市計画の共有が不可欠です。今定例会では、幕張海浜公園の活性化施設整備（民間導入）、アルティーリ新アリーナの建設検討、マリンスタジアムの再整備などの動きを核とし、幕張新都心全体を俯瞰したまちづくりの方向性について質問しました。

市長からは、「官民連携によるプロジェクトを将来構想実現の好機と捉え、民間主体の取り組みを推進しながら、まちづくりの基本方針策定に向けた検討を進めていく」との答弁がありました。

今後も市議団として、スタジアム・アリーナ構想を中心に据えながら、幕張新都心のまちづくりを着実に推進してまいります。



手話に親しむ機会の創出 「伝えたい」が届くまちへ 手話でつなぐ共生社会の第一歩

千葉市では、手話が言語であることの理解と普及を促進し、障がいの有無にかかわらず互いに助け合う地域共生社会の構築を目指し、「千葉市手話言語の普及及び障害者のコミュニケーション手段の利用を促進する条例」が6月27日に施行されました。

また、国においても「手話に関する施策の推進に関する法律」が施行され、9月23日が「手話の日」と定められるなど、手話への理解が進んでいます。2025年11月には東京デフリンピックの開催もあり、市民の関心が高まっています。

市議団では、これまでの取り組みと今後の方向性について質問し、副市長からは、福祉講話での手話体験、療育センターでの講習会、聴覚障害者団体への助成などの答弁がありました。

今後は、「手話の日」に千葉都市モノレールセントラルアーチのブルーライトアップやパネル展示、手話動画の公開、情報コミュニケーション支援のリーフレット作成などを通じて、手話が自然に使われる共生社会の実現を目指す方針が示されました。

市議団として、条例の理念を市民生活に根付かせるため、今後も継続的に取り組みを推進してまいります。

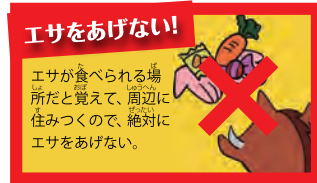
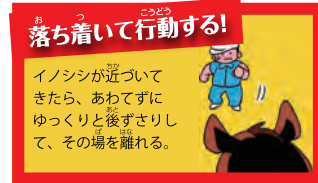


教育長より手話を学ぶ。

有害鳥獣対策の強化 市民とともに考える有害鳥獣対策

近年、本市では緑区・若葉区を中心にイノシシの目撃や農作物被害が増加しており、箱わな・くくりわなの増設、電気柵の支援、免許取得補助などが進められています。

イノシシに出会ったら…



都市部でもJR千葉駅周辺や赤井町での出没、空き家へのハクビシン・アライグマの侵入など、こうした都市部における生活被害の拡大を受け、有害鳥獣対策の現状と今後の方向性について伺いました。

副市長からは、「生活被害が拡大していることを踏まえ、被害の種類に応じた対策を講じており、被害の防止と安全確保に努めている。今後も市民の安全・安心を守ることを第一に、住宅地などにおける生活被害の防止に向けた施策を強化していく。」との方針が示されました。

第5期千葉市病院改革プラン

近年の病院事業については、令和2年度以降でコロナ補助金で黒字化しましたが、令和5年度から再び赤字になっていました。令和6年度決算においても医業収支がマイナス66億円、純損失は13億円と厳しい状況です。

今後も病院事業は、新病院建設に伴う物価高騰費用への対応、老朽化した海浜病院の修繕費用や新病院完成後の海浜病院解体費用など、多額の財政需要が見込まれていることから、これまでの病院改革プランの評価と次期プランについて、さらに、病院事業の赤字の原因と累積欠損金の解消の見込みについて伺いました。

市からは、「新病院におけるがんの集学的治療体制の強化など高額医療の提供等、収益増を図りながら、経常収支の黒字化と経営の安定化に努め、累積欠損金の削減に取り組む」との答弁がありました。

市議団として、地域医療の中核として質の高い医療の提供と持続可能な財政運営の両立を求めてまいります。



新病院完成イメージ